



2017年8月入職

しばこうへい
柴 浩 平

ベストを模索し、自らでルールを作る

30秒の接点でも、思いやり行動を実践できる

善仁会グループに入職した後は、「検査の質を上げること」に重きを置いており、患者さまとの「ふれあい」についてはあまり意識していませんでした。私は新卒で入社したので、ほかの医療施設での経験がありません。今後、よりスキルアップをはかっていく上で、「ふれあい」の本質を学べる思いやりエキスパートの研修は最適だと思い、上長からの推薦を受け、受講しました。

レントゲン撮影は30秒ほどで終わることもあり、患者さまとお話する機会は多くありません。そんな短い時間であっても自分からアクティブに患者さまに働きかければ、些細な仕草や変化に気づくことができます。「痛いところはございませんか？」という一言を添えるだけで、相手に対して自分のことを気にかけてくれているという安心感を与えることができるのです。研修をとおして必要なことをインプットできたので、これからは思いやり行動を意識的に日々アウトプットしながら、自分の中にしっかりと定着させていきたいと思っています。

物事を徹底的に突き詰めたい



私は比較的おっとりとしたタイプなのですが、物事を徹底的に突き詰めていく一面もあります。ゲームをしているときも、みんなとワイワイ遊ぶのを楽しむ一方で、対戦ゲームをする際には「勝つためにどうすべきか」を熱心に分析していました。

その性格は、今の仕事にも活かしていると思っています。たとえば、手技の補助として使用している「アンギオ装置」の操作もその一例です。私が在籍している施設には、十数名の

ドクターが在籍しており、ドクターごとに求められることが異なっています。それぞれのニーズを踏まえ、「どれくらい照射すれば手技を進めやすいか」を考えながら透視時間を調整したり、操作画面をカスタマイズしたりと、ベストなオペレーションを模索しています。そこで得たノウハウはほかのスタッフにも共有し、自ら率先してルールを作るような意気込みで仕事に取り組んでいます。まだまだ未熟なところもありますが、他施設にヘルプに行く機会が増えている今、まわりの指標となれる存在を目指して精進していきたいです。



安心・快適な検査の提供と
職員の見本になれるよう

日々研鑽してまいります

柴 浩 平